

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043(223)3005  
毎月 1日発行  
平成 28年 6月号

## 千葉県立農業大学校における担い手育成

千葉県立農業大学校  
農業研修科 教授兼科長 清宮 斉

本校は、千葉県農業の発展に寄与する優れた農業の担い手及び指導者を育成することを目的として、昭和 54 年に開校し、37 年が経過しています。

### 1 現状

本科は、農学科、研究科（各 2 学年制）農業研修科、機械化研修科の 4 科体制で担い手を育成しています。

### 2 4 科の内容

(1) 農学科では、先進農家等への派遣実習や多彩な専攻教室での学習を通じ、農業に関する実践的な知識及び技術、並びに経営管理能力を有する農業の担い手を育成しています。

(2) 研究科では、農業に関する実践的かつ専門的な知識及び技術、並びに高度な経営管理能力を有する農業の担い手及び指導者を育成します。

必須項目として、農学実験、インターンシップ研修などがあります。

本年度から、農大模擬会社をスタートさせました。

(3) 農業研修科では、農業に関する有益かつ実用的な知識及び技術を習得します。

(4) 機械研修科では、農業用機械の有益かつ実用的な知識及び技術を習得します。

### 3 進路の状況

(1) 農学科の最近 5 か年の進路は、就農（雇用就農を含む）28%、JA等の農業関係団体 5%、進学 27%、農業関連企業他 26%となっています。

就農者は県内各地で、地域農業のリーダーとして活躍しています。

(2) 研究科の最近 5 か年の進路は、就農 31%、JA等の農業関係団体 16%、農業関連企業他 38%となっています。多くが農業関連の指導者として活躍しています。

(3) 農業研修科では、昨年度、農業者実践研修生 5 名全員が就農しました。

農業者養成研修では、25 名中就農率 60%となっています。

また、青年就農者確保・育成給付金の申請者は、14 名でした。

(4) 機械研修科では、昨年度トラクター基本研修の合格者が 74 名で、内訳は、農学科 29 名、農業研修科 19 名、農業者 26 名となっています。

農業機械士養成研修では、37 名が合格しました。



社稷祭の開催（本校の玄関前）

野菜ニュース



## トマト・キュウリの土壌還元消毒法の低コスト化

千葉県農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所  
東総野菜研究室 室長 大木 浩

低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒法は、畝部分だけに処理することで効果を落とさずに今までの半分の資材費で処理ができます。

低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒法は、ネコブセンチュウやウリ類ホモプシス根腐病などに対して高い被害軽減効果が得られます。しかし、他の土壌消毒法と比べると資材費が高いことが普及しにくい原因になっていました。そこで、エタノールの量を減らしても還元消毒効果が期待できる方法として、畝部分処理法を開発しました。

この方法では、作物の根が張り、病害虫が多く生息している畝部分だけにエタノールを散布し、通路には散布しません。ネコブセンチュウが多いキュウリ圃場では、通路の表面付近にも根こぶがついた根が見られるので、畝部分のみの処理で十分な効果が得られるか心配になりますが、処理液が畝から通路にも多少流れ落ち、太陽熱の効果も加わることにより通路でも表面付近では十分な還元消毒効果が得られます。

具体的な処理としては、作物の栽培後は耕うんせずに、図のように、畝部分の上だけにかん水チューブを並べ、土壌の被覆フィルムを通路部分も含めて全面に張ります。その後に液肥混入器などで 0.25~0.5%に薄めたエタノールを散布します(写真)。畝部分 1 m<sup>2</sup>当たりの散布量は黒ボク土で 150L、砂質土で 75L です。砂質の圃場は水持ちが悪いので、水量を減らしてエタノール濃度を濃くします。したがって、エタノール資材の量は砂質土の圃場も黒ボク土の圃場も同じです。散布が終わったら施設を密閉して3週間ほど被覆します。その後は、耕うんして、土壌の還元化を解消してから定植作業を行います。

0.25%エタノールの畝部分処理に必要な市販品エタノール(65%濃度)の量は10a当たり、約300Lで、全面処理する場合の半分です。金額は約4万円で、一般的なフスマを用いた処理(10a当たり1t)より安価になります。

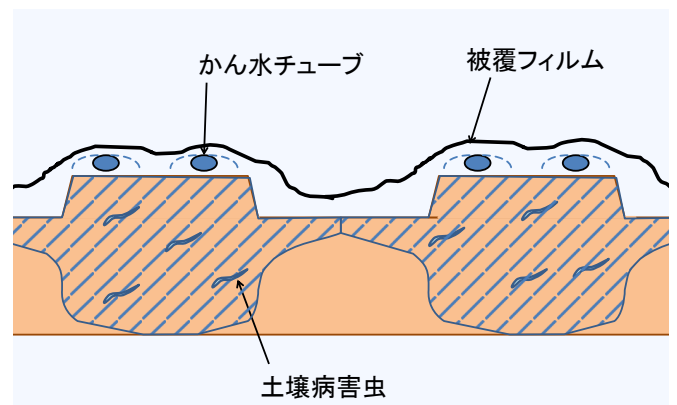


図 畝の断面図

注) 斜線部分が還元消毒効果の得られる範囲

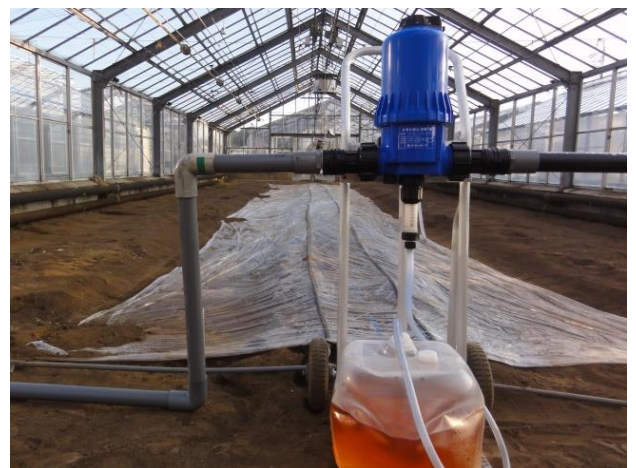


写真 液肥混入器を用いた低濃度エタノールの散布  
(実際はハウス内全面を被覆する)

頑張る産地



## 花の魅力、花づくりの楽しさを伝えたい

山武農業事務所 改良普及課  
普及指導員 綿貫 俊貴

丸朝園芸農協花卉部（芝山町周辺）の若手生産者 石田広和さんはUターン就農し、サンダーソニアや畑地性カラー等の切り花を生産しています。多くの方が花を身近に感じ、様々な場面で使ってくれることを願い、花の魅力や花づくりの楽しさを伝えていきたいとの思いを持って頑張っています。

### 1 就農のきっかけ

石田さんは現在 34 歳で、2013 年 2 月まで自動車関連会社に勤務していました。用品販売、メンテナンス、販促等、多くの業務を経験し、中でも店長としての経験は、短期～長期の目標設定や、その達成に向けた計画立案等、非常にやりがいのあるものだったようです。



そのような充実した毎日を送る中で、自分の「ブランド」をつくっていけるような仕事をしたいという思いが強くなり、実家の切り花生産を経営発展させていくことを決意し就農しました。

### 2 就農してから

現在の経営概要は、施設面積 100 a、労力としては両親と常時雇用 1 名に加え、妻の由佳さんも子育ての傍ら農作業を手伝っています。

就農当初は何も分からず、思った以上に自分が「使えない」ことを実感したということです。そのため、両親だけでなく地域の先輩たちからも積極的に技術を学びました。前職の経験からこまめにメモを取る習慣があり、日々の記録をデータとして蓄積することで、仕事への理解を深めました。

昨年からは、作付け計画や栽培管理を任せられ、経営向上への意欲がさらに高まりました。

品目の選択の変更や規格外品の直販を行ったことにより前年の販売額を上回るすることができました。

所属組織の活動では全国の花き市場を訪問し、仲卸や小売業者と情報交換を行いました。生産者として実需者の要望に応えられていないことを実感するとともに、前職では当たり前だった「消費者中心」の考え方が組織の中に浸透していないことに驚いたそうです。今後も積極的に実需者の声に耳を傾け、生産者からの提案も行うことによって新たな販売チャンスを掴みたいと考えています。

### 3 花づくりへの思い

就農前は、切り花生産をビジネスとして捉え、儲けることばかりを考えていましたが、実際に花を育ててみると、そのこと自体が楽しく、やりがいを感じるようになりました。



主要品目のサンダーソニア

花は、色や大きさ、日もち等、いろいろな視点で評価されますが、人から人に気持ちを込めて贈られるものであることに魅力を感じたそうです。

今後は、多くの方が花をもっと身近に感じ、生活の様々な場面で使ってくれるようになることを願って、生産拡大による経営発展という目標とともに、花の魅力や花づくりの楽しさをたくさんの人に伝えていきたいとおっしゃっていました。



## 地域でも 6 次産業化の胎動

### 千葉県 6 次産業化サポートセンター

千葉県におけるこれまでの 6 次産業化は、主として個別事業体で取り組まれてきました。「六次産業化・地産地消費」が制定され 5 年が経過した現在、これまでの取組に加え、地域的な広がりを持つ 6 次産業化の展開が期待されています。以下には、これに関する県内の先駆的な二つの取組事例と 6 次産業化交流会の開催をご案内します。

#### 1 多古町の 6 次産業化推進事業

香取郡多古町では、町単独の事業として農畜産物ブランド化推進事業を平成 26 年度より開始しています。この事業では、多古町の農畜産物の新しい魅力を発信するため、町にふさわしい特産品開発への補助金交付などを行っています。

これにより、これまでに「古代米あめ」、「さつまいもプリン」、「さつまいも茶」などが開発され、道の駅を始め、様々なところで販売されています。なお、「さつまいもプリン」は「ふるさと名品オブザイヤー 2015」優良賞に選定され、売上も順調に推移しています。



「さつまいものプリン」(富士正食品(株)製)

この他にも、6 次産業化に関する講演会や参加事業体同士の懇談会、商品発表会やメディアへの情報提供など、多彩な取組が行われています(多古町の担当部署：産業経済課農業振興係)。

#### 2 南房総市における一次産業振興のためのプラットフォーム作り

南房総市では、市内で農林水産業を営む人や市内外の加工業や販売業の人を会員とする、「南房総産ビジネス倶楽部(略称 MBC)」を平成 26 年から立ち上げました。これを、情報、技術、出会いのプラットフォームと位置づけ、セミナーや交流会などを通じて会員同士のマッチングや新規事業創造を支援しようとしています。

事務局では、農商工連携や六次産業化の展開につながることを目指し、会員に契約支援や事業化支援を積極的に働きかけています(南房総市の担当部署：農林水産部農林水産課)。

#### 3 交流会の開催

6 次産業化サポートセンターでは、地域での 6 次産業化推進に資するために、「地域で考える 6 次産業化」をテーマとした交流会を下記の要領で開催します。参加を希望される方は、下記のファックス番号へ氏名・連絡先住所・電話番号等を明記してお申し込みください。

日時 平成 28 年 6 月 10 日(金)  
午後 1 時 30 分～4 時  
場所 ホテルプラザ菜の花 3 階会議室  
(千葉市中央区長洲 1-8-1)  
内容 講演(地域版 6 次産業化の推進)と報告  
(千葉県、南房総市)

#### 問い合わせ・申込み先

千葉県 6 次産業化サポートセンター  
TEL: 043-223-3007  
FAX: 043-224-1444



# 砂質土を用いた輸出用植木類の生産技術

千葉県農林総合研究センター  
花植木研究室 室長 加藤 正広

輸出用植木類の栽培を黒ボク土に代えて山砂で行う場合、施肥量を黒ボク土と同等量から 2 倍量とすることで、黒ボク土並みの生育量が得られます。根洗い作業に要する時間も 30% 短縮できます。

## 1 はじめに

EU 諸国や中国における日本庭園ブームを受けて、全国的に植木・盆栽類の輸出が急増しています。しかし、輸出相手国の植物検疫において植木・盆栽類の土壌から植物寄生性線虫が検出され輸入差し止め処置がとられる事例が散見されました。これら線虫に対する対策として、土壌を除去する根洗いとその後のピートモス鉢上げ技術が有効ですが、根洗い作業に多くの労力と時間を要することが課題としてあげられていました。砂質土壌で栽培すれば根洗いは容易になりますが、肥沃度が低いため生育が不良になることが懸念されます。そこで、砂質土壌の種類や適正な施肥量を検討し、従来の黒ボク土による栽培と同等の生育を確保できる栽培管理技術の開発に取り組みました。

## 2 輸出用植木類の栽培に適した砂質土壌

植木生産に利用が可能と判断される山砂と川砂を用いてイヌマキ、イヌツゲ、キャラボクを植栽し生育を比較したところ、いずれの樹種も山砂の方が川砂より生育が旺盛で、植木類の生産に適していることが明らかになりました。

## 3 山砂に植栽した植木類への適正施肥量

山砂による栽培では、黒ボク土に比べて生育がやや劣るなどの新たな課題も明らかになりました。そこで、山砂に植栽したイヌマキ、イヌツゲ、キャラボクに対して、窒素量を段階的に変えて施用し、黒ボク土と同等な生育量が得られる窒素量を検討しました。その結果、緩効性化成肥料を用いたイヌマキでは標準施肥量（窒素成分 0.5~0.7 g/100cm<sup>2</sup>/回）の 2 倍量を、イヌツゲ、キャラボクでは黒ボク土と同等量を根域地表部に施用することで、黒ボク土並みの生育量が得られることが明らかになりました（図 1）。

## 4 山砂で栽培した植木類の根洗い時間

山砂で栽培したイヌマキ、イヌツゲ、キャラボクについて、どの程度根洗い作業時間が短縮できるかを検証しました。その結果、いずれの樹種も黒ボク土に比べて根洗い時間が 30% 程度短縮されることが明らかになりました（図 2、写真 1）。

## 5 おわりに

山砂を用いて輸出用植木類を栽培することにより、線虫対策である根洗い・鉢上げの作業効率の向上が可能になります。

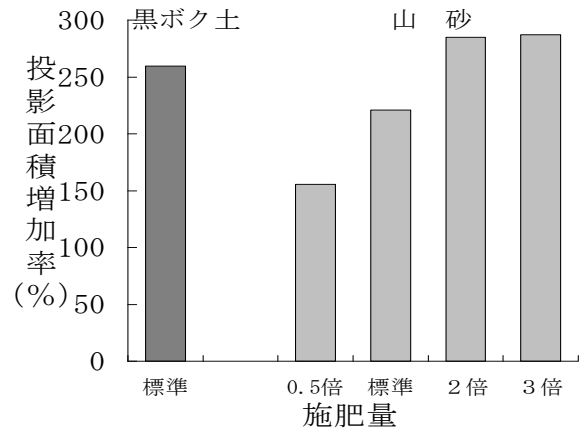


図 1 山砂に植栽したイヌマキに及ぼす窒素施肥量の影響

- 注 1) 投影面積 = 樹高 × 樹幅
- 2) 投影面積増加率 = (試験終了時投影面積 - 試験開始時投影面積) / 試験開始時投影面積 × 100
- 3) 標準施肥量 (窒素成分 0.5~0.7 g/100cm<sup>2</sup>/回)
- 4) 山砂は香取地域の成田層から採取した

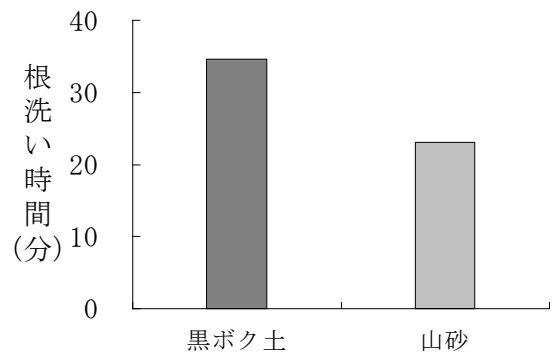


図 2 黒ボク土と山砂で栽培したイヌマキ造形樹の根洗い時間の違い



写真 1 根洗いを行ったイヌマキ造形樹

注) 樹高 2 m、根鉢直径 60 cm

## 平成 28 年度における農地中間管理事業の取組

公益社団法人千葉県園芸協会 農地部

農地中間管理事業が平成 26 年度から始まり、今年で 3 年目を迎えました。昨年度の実績については全県で 795ha の借受けになり、うち 786ha を担い手へ貸付けました。その際に現場から寄せられた意見を基に、より本事業を活用しやすくするための変更を行っています。

### 1 平成 28 年度からの変更点

#### (1) 物納を可とする

本事業では農地の流動化促進や担い手の手続き軽減の観点から、原則として農地の賃料については金納としてきました。しかし、事業推進に、物納に対する意見や要望が数多く寄せられる中で、本年度からは物納を可とするように現在詳細を詰めています。

#### (2) 米価連動賃料の算定は当年米価を用いる

当協会では米価に連動した賃料の設定も可能としています。従来、その算定方法は前年度の米価を用いた方法であり、各地域で取り扱われている当年度の米価を用いた方法とは異なっていました。そこで、地域の実態にあった形で利用してもらえるように、本年度からは当年度産米を用いた米価連動方式を用いることとしました。※7月の農業委員会に係る案件からの対応となります。

#### (3) 借受期間の弾力的運用

本事業では、借り手となる担い手が長期的かつ安定的に耕作できるように、農地の借受期間は原則 10 年以上としておりました。しかし、都市部の農地を保有している方や、将来的に子供が農業を開始するかもしれないと考えている方などからは、10 年の借受期間は長いとの意見が多く寄せられていました。そこで、本事業をより多くの方に利用していただくために、所有者からの要望があった際には、最短 5 年まで短縮できるように作業を進めております。

### 2 機構集積協力金の交付について

本事業において、貸し借りの要件を満たした場合、機構集積協力金を受けることができます。本協力金には大きく分けて 2 つのタイプがあり、一つは主に所有者が対象になる個人タイプで、もう一つは地域で取り組んだ際に対象になる地域タイプです。後者の地域タイプは地域に協力金が交付され、地域内の話し合いにより用途を決められる自由度が高い協力金となっており、昨年度は 13 の地域で取り組んでいただいた結果、本協力金が交付されました。協力金の主な実績としては、地域内施設の補修費や土地改良事業への費用負担等でした。

本年度内に各種補助金の交付を受けるには 10 月の農業委員会にて当協会が借り受ける手続きが最終となります。また、手続きに当たっては確認、調整等の作業に時間を要しますので、8 月下旬には申し込み等の手続きが必要となります。

本事業の活用を検討されている場合は関係機関への早目の相談をお願いします。

お問い合わせ先

- (1) 公益社団法人千葉県園芸協会 農地部  
TEL : 043 (223) 3011  
E-mail : nouchibu@chiba-engei.or.jp
- (2) 農地が所在する市町村の農政担当課
- (3) 最寄りの農業事務所企画振興課